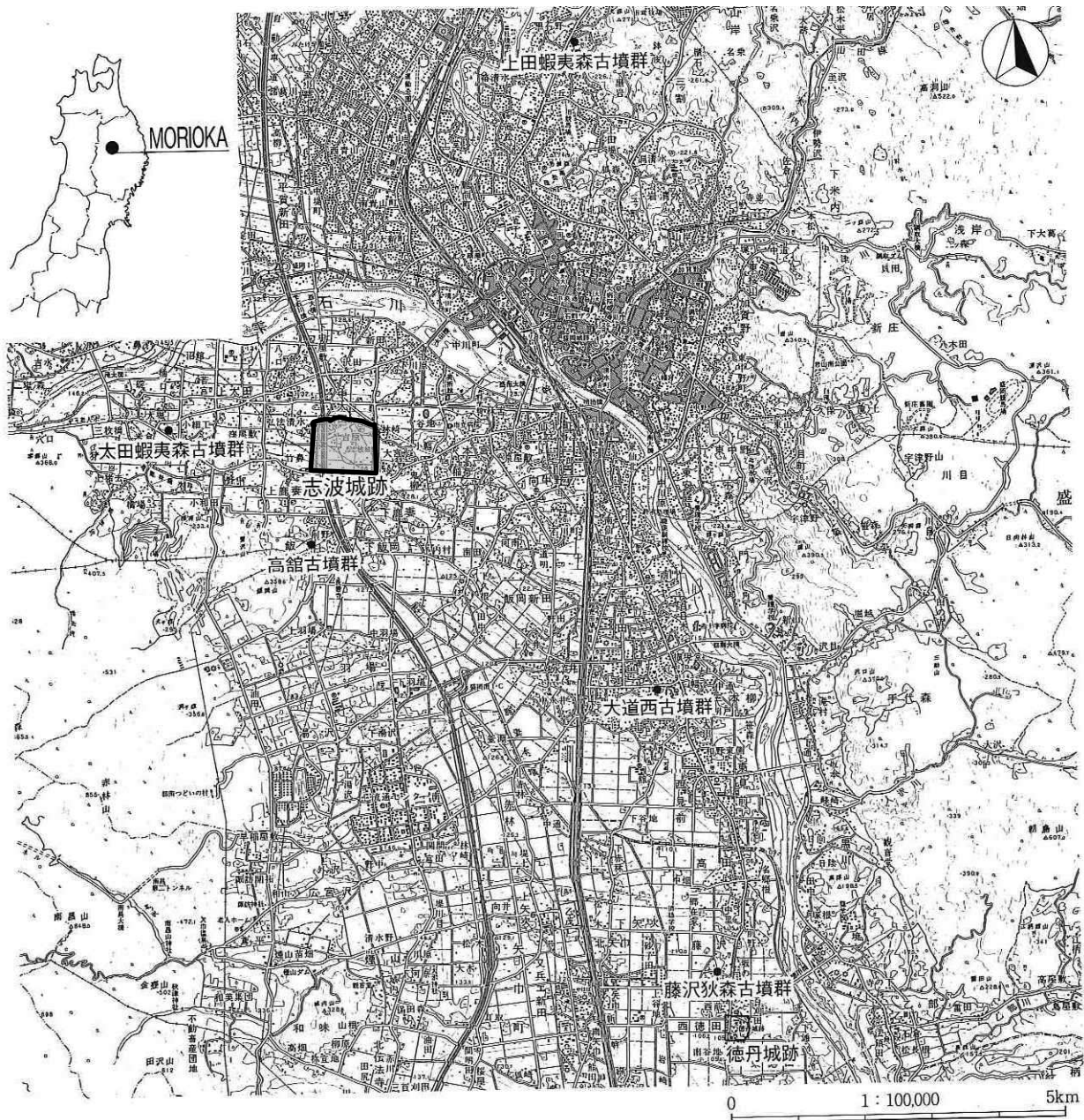


国指定史跡

志波城跡

第 104 次発掘調査 ～外郭西辺北部築地塀跡の調査～
現地説明会 資料



史跡志波城跡 位置図

平成 22 年 10 月 9 日(土)

盛岡市教育委員会 歴史文化課

1 はじめに

史跡志波城跡^{し わ じょうあと}は、盛岡市南西部の下太田方八丁地内他に所在する平安時代初頭の延暦^{えんりやく}22年（803年）に坂上田村麻呂^{さかのうえの た む ら ま ろ}によって造営された古代陸奥国^{むつのくに}最北・最大級の城柵^{じょうさく}（東北経営のために造営された行政府）跡です。

志波城跡の発掘調査は、昭和 51・52 年(1976・77 年)の東北自動車道建設にともなう岩手県教育委員会の調査以降、盛岡市教育委員会が継続して実施しています。近年は「第Ⅱ期保存整備事業」にともなう政庁及びその周辺域の確認調査、城内の現状変更^{せいちょう}にともなう事前確認調査を実施しています。「政庁」域ではこれまでに、正殿^{せいでん}・東脇殿^{ひがしわきでん}・西脇殿^{にしわきでん}・南門・北門・東門・西門・他、計 18 棟の掘立柱建物跡やそのほかの遺構が確認されています。また政庁周辺の「官衙域^{かんが}」では、掘立柱建物跡や竪穴住居跡^{たてあなじゅうきょあと}などが確認されています。

盛岡市教育委員会では、平成 5 年から外郭南辺^{がいかく}周辺の遺構保存復元整備工事を開始し、平成 9 年に「志波城古代公園」として開園しました。散策の場や気軽に歴史と触れ合える公園として、年間 1 万数千人の来場者をかぞえています。今年度いっぱい^{いっぴ}の予定で、政庁・官衙域の整備を進めており、政庁南門・西門・東門の復元や政庁内部の各施設の表示、官衙域のガイダンス施設として復元建物を整備しました。

2 志波城跡の概要

古代(飛鳥・奈良・平安時代)、東北の人々は蝦夷^{エミシ}と呼ばれ、朝廷と交流や争いを繰り返していました。

今からおよそ 1200 年前の平安時代、桓武天皇^{かんむてんのう}の時代に坂上田村麻呂はアテルイら蝦夷軍との戦いに勝利し、802 年に胆沢城^{いさわじょう}（奥州市水沢区）を、そして翌 803 年盛岡の地に「志波城」を造営しました。

東北各地に 20 数ヶ所造られた「城柵」(東北経営のために造営された行政府)のうち、陸奥国最北端に位置する志波城は、国府多賀城(宮城県)に匹敵する規模を誇りました。内部には政庁や官衙建物、兵舎や工房が整然と建ち並び、多くの蝦夷達が朝貢や交流に訪れたと考えられます。時の政府がこの盛岡の地に最大規模の城柵を築いたのは、広大な平野の広がる肥沃な土地であること、河川の合流点に位置し出羽(日本海側)や太平洋沿岸部、東北北部への交通の要衝であったこと、この地域に有力な蝦夷の村があったことがその理由と考えられています。平安時代から現在に至るまで、この盛岡は北東北の中心として栄えていたことがうかがえます。

しかし、志波城は北を流れる雫石川の度重なる氾濫の被害を受けたことから、およそ 10 年で徳丹城(矢巾町)を造営し機能を移転してしまいます。城内の主な建物は解体され、部材は雫石川と北上川の水運を利用し徳丹城に運ばれたと考えられます。これ以降、志波城をしのぐ規模の城柵は築かれることはありませんでした。

志波城は「日本紀略」などの記録にはあるものの、長い間所在地が不明で、紫波郡内などに候補地と考えられる遺跡がいくつかありました。

今の志波城跡の場所は、昭和 50 年代以前には「太田方八丁遺跡」と呼ばれ「前九年合戦」(1051~62 年頃)時の源氏の陣場跡だと長く言い伝えられてきました。

昭和 30 年代初めの岩手大学板橋源教授の調査(中太田吉原地内)によって、古代城柵跡ではないかと考えられるようになりました。昭和 51 年、東北縦貫自動車道建設にともなう岩手県教育委員会による発掘調査で外郭南辺の築地塀跡や外大溝、多くの竪穴住居跡を発見し、その後の盛岡市教育委員会による調査によって志波城跡であることが確認されました。そして東北地方の古代史を考える上で欠かせない重要な遺跡であることから、昭和 59 年に国の史跡の指定を受けました。現在でも志波城跡の調査・研究は進められ、その成果をもとに保存・復元・整備が進められています。

3 志波城跡の構造

□立地

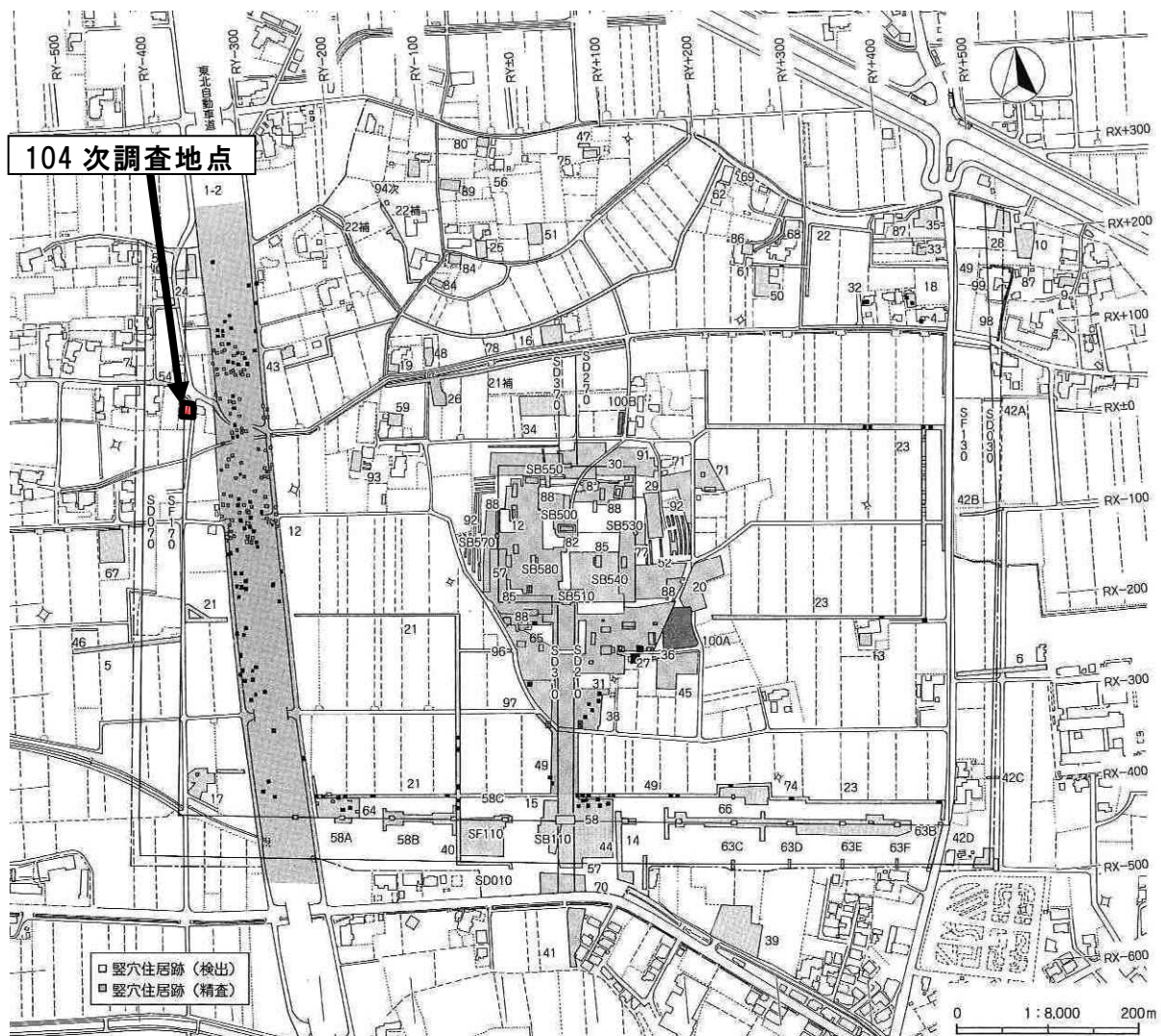
- ・北上川と雫石川のつくりだした沖積段丘面上に立地
- ・南の胆沢地方、西の秋田(出羽国)^{でわのくに}方面、北の東北北部などへ通じる交通の要衝
- ・当時の雫石川は、現在よりも志波城跡に近接して流れていた
- ・城内北部には、小河川が入り込んでいた

□規模と構造

- ・外郭^{がいかく} 840m四方の築地塀^{ついでい}と 928m四方の外大溝により二重に区画（※１・２）
南辺築地塀には約 60m間隔で櫓^{やぐら}
- ・政庁^{せいちょう} 城内中央やや南寄りに、150m四方を築地塀で区画（儀式の場所）
築地塀の東西南北各々中央に門
正殿^{せいでん}・東脇殿^{ひがしわきでん}・西脇殿^{にしわきでん}をはじめとした建物が整然と並ぶ
正殿・東西脇殿・目隠塀^{めかくしべい}によって囲まれた中央の広場は 66m四方
- ・官衙域^{かんが} 政庁周辺の掘立柱建物群（役所としての実務地区）
政庁の南東・南西・東に確認されている
- ・竪穴建物群^{たてあな} 外郭築地塀内側の約 108m（一町）の範囲に帯状に密集
城内に 1200～2000 棟あったと考えられる（兵舎・工房・住居など）

(※１) 外郭規模は国府多賀城に匹敵（八町四方）。 政庁規模は城柵で最大級。

(※２) 東辺および南辺外郭築地線の一町(約 108m)外側(林崎遺跡・新堰端遺跡・田貝遺跡)に、外郭築地線と平行に走る幅 5 m 以上の溝跡が確認されている。これも志波城跡を取り囲む外郭施設ととらえることができ、今後西辺にも同様の溝跡が存在するかどうか等の調査の蓄積が必要である。



第2図 志波城跡全体図 (1 : 8,000)

4 第104次 発掘調査 ～外郭西辺北部の調査～

□概要

- ・調査目的 史跡現状変更にとまなう事前調査
- ・調査期間 平成22年9月14日～10月15日
- ・調査面積 184 m²
- ・調査主体 盛岡市教育委員会
- ・調査機関 盛岡市教育委員会事務局 歴史文化課
- ・検出遺構 外郭西辺 築地堀跡・築地内溝跡・築地外溝跡・小柱穴
- ・出土遺物 平安時代 土器（あかやき土器）極少量

□内容

本調査区は志波城外郭西辺北部にあたる。外郭西辺部のこれまでの調査では、築地の内溝跡、外溝跡を検出している。遺構保護の観点から、すべてを発掘するのではなく、大半を検出のみにし、一部をトレンチによって確認した。

□検出遺構

・SF170 外郭西辺築地堀跡

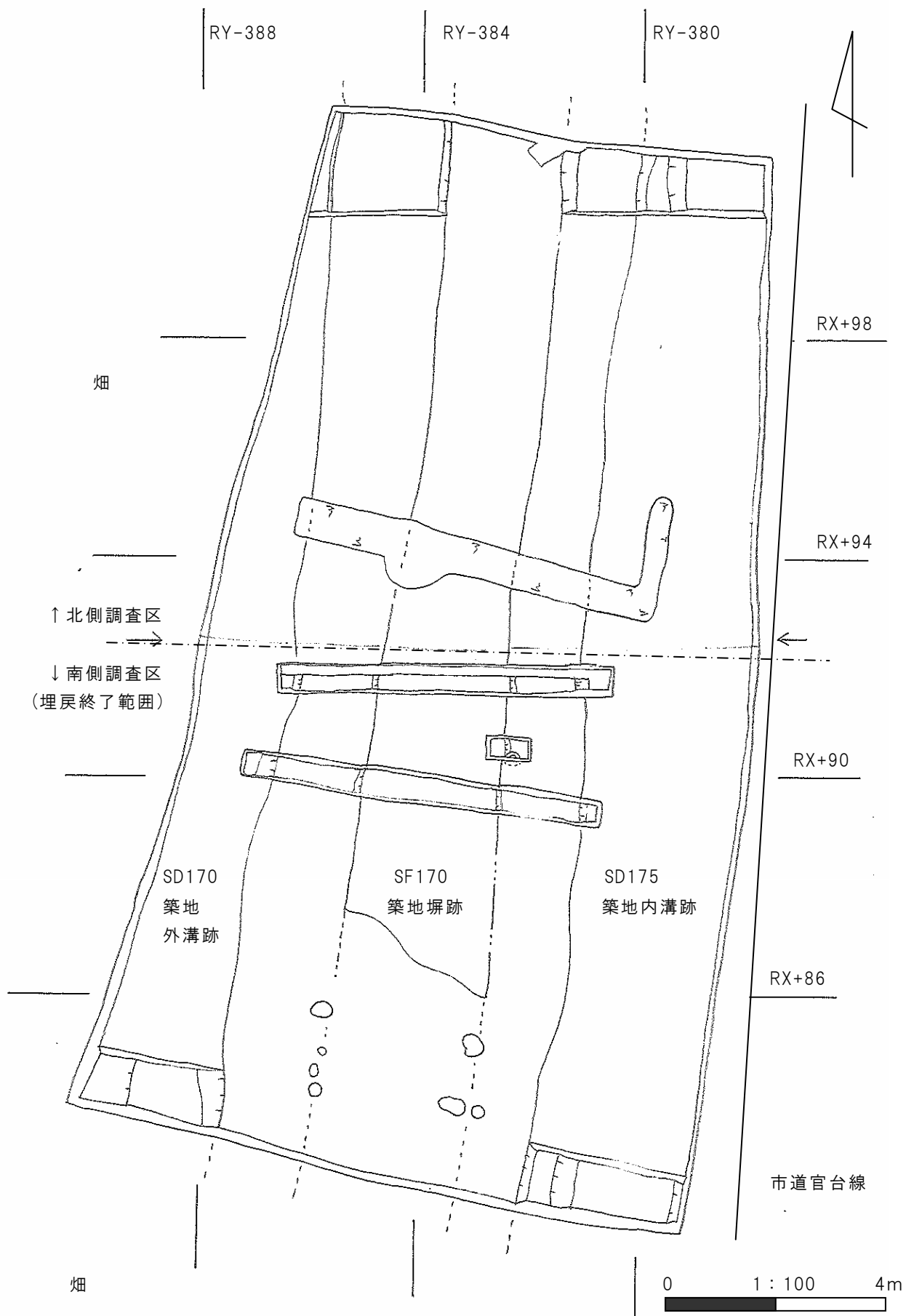
調査区中央に南北に伸びる築地堀跡，基底部を検出した。調査区南端付近では，攪乱されており確認できなかったが，築地版築時の寄柱などと考えられる小柱穴を検出した。全面的に築地崩壊土に覆われていた。トレンチ調査の部分で確認した基底部の幅は，およそ 2.4mを計る。版築は，黒色土と暗褐色土の混同土を3cm程度の厚さに叩き締めている。北側調査区内の崩壊土中には，塊で崩れたと考えられる版築土ブロックを確認した。

・SD170 外郭西辺築地外溝跡

調査区西側に，築地外溝跡の東側の肩を検出した。西側の上端は，西側隣接の畑の中にあると考えられる。埋土上層には，築地崩壊土が堆積している。中層下部には，白色火山灰(To-a・十和田 a 火山灰と考えられる。915 年頃降下)の堆積を確認した。

・SD175 外郭西辺築地内溝跡

調査区東側に，築地内溝跡の西側の肩を検出した。東側の上端は，東側隣接の市道中央付近にあると考えられる。埋土上層には，築地崩壊土および白色火山灰(To-a・十和田 a 火山灰と考えられる。915 年頃降下)の堆積を確認した。



第3図 志波城跡第104次調査 全体図 (S=1/100)

5 まとめ

外郭西辺部では、これまで第 5, 17, 21, 24, 54 次にわたる計 5 回の調査を実施している。これらの調査で外郭西辺築地線の内・外溝は検出しているが、築地塀本体部分は耕作等で削平されていたり、市道官台線直下にあたることから未確認であった。今回の第 104 次調査では、外郭西辺における築地塀・内溝・外溝をセットで確認した初めての事例である。

これまで外郭西辺築地線は、市道官台線下にあたると考えられており、調査で外郭西辺築地塀を検出した事例が無かった。今回の調査地点以外では、南に隣接する畑地を除いて、築地塀は市道官台線直下（道路建設時に遺構は破壊されていると思われ史跡指定外）に位置すると考えられる。

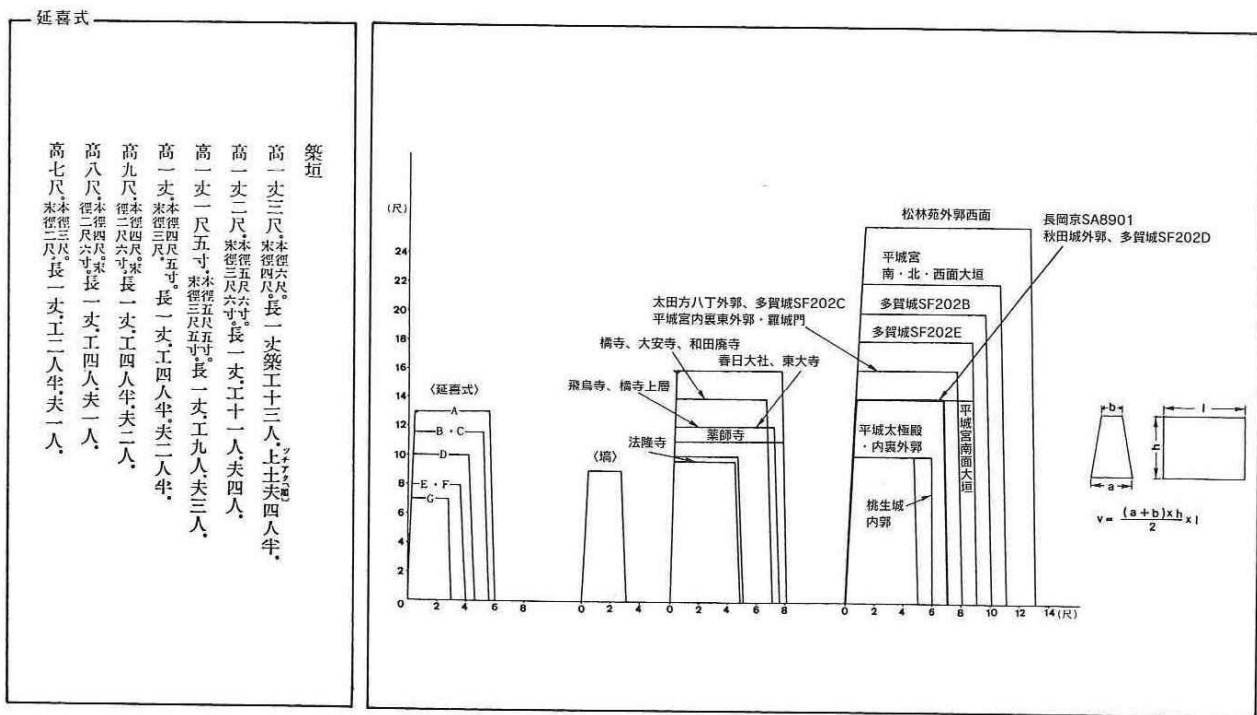
調査前に建っていた住宅は、昭和 20 年代半ばに建築されたとのことで、その後は耕作などされていなかったことから、遺構が良好に地下保存されてきた経緯がある。また、地権者及び周辺住民の話では、住宅建設前は小高い丘のようになっており、子供たちがソリ遊びをするのに絶好の場所だった、とのことである。戦後、昭和 20 年代、周辺の水田や畑の開墾等のための土として切り崩され、住宅建設時にはすべて削平されたという。この丘は、築地塀の残存だった可能性がある。

以上のことから、この地点において外郭西辺築地塀が、良好に保存されてきたと考えられる。

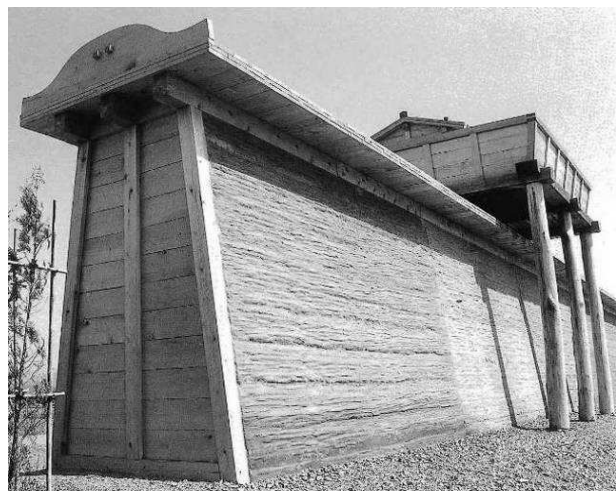
これまでの調査で、外郭の築地塀が残存していたのは、保存整備の終わっている外郭南辺以外では確認した事例がなかった。また、外郭東辺は県道盛岡和賀線の直下、外郭西辺のほとんどの部分は市道官台線直下にあたることから、今後別の地点の調査で外郭築地塀が検出される可能性は極めて低いと考えられる。

今回検出した外郭西辺築地塀と内外溝は、史跡志波城跡の外郭構造・規模を知る上で、きわめて貴重な遺構を検出したこととなり、この地点は極めて重要な場所といえよう。

今後は、今回の調査成果について整理検討を深めるとともに、調査事例の少ない外郭東・西辺の門や櫓の有無や構造などについて、調査をすすめることが必要と思われる。



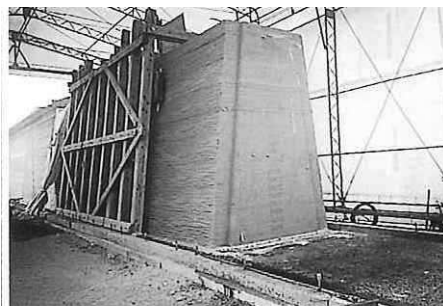
『延喜式』規定を基準にした築地推定高（長岡京発掘調査報告書より）



復元された外郭南辺の築地塀と櫓



人力突固め



版築完了・仮枠移動

外郭南辺 築地塀復元の様子

史跡 志波城跡 第 104 次発掘調査 現地説明会資料

平成 22 年 10 月 9 日

盛岡市教育委員会 歴史文化課

岩手県盛岡市津志田 14-37-2 TEL 019-639-9067

Web <http://www.city.morioka.iwate.jp/14kyoiku/bunka/shiwajo/index.html>